

2021年 6月
あさかぜ保育園子育て支援だより 6月



「六月」一年で考えるとすでに半年が去ろうとしています。この年になると月日の経つのが早く感じられます。(私、しっかりワクチン接種ができる年齢です)

六月と言えば「梅雨」「あじさい」「かたつむり」「あまがえる」「かさ」「ながぐつ」などが私の頭には、イメージとして浮かんできます。大変、しっとりとした抒情的雰囲気ではありませんか？(今年の梅雨入りは、なんと5月15日です。去年は6月10日頃で一ヶ月程度、早いですね)

若かりし頃の私(40数年前)しとしとと降る雨のなか、子どもたちと一緒に園庭へ出て傘をさして長ぐつをはき雨のお散歩。(ゆったりとしてるでしょ)

「あっ!かたつむりじゃ」「あまがえる!」口ぐちに子どもたちは小さな発見をして報告に来てくれます。また、子どもたち同士で「わっ!それどこでつかまえたん?」「あじさいの葉っぱのところよ。」「あとで本、みようや」とお互いを認め合い遊びが膨らんでいきます。

最近の子どもたちは、どうでしょう?

まず、天候からして変わってきていますよね。しとしとと降る雨からタライをひっくりかえしたような雨。園庭は、すぐに湖のようになっています。しかし、雨上がりは子どもたちの天国です。草むらに潜んでいるカエル・とかげ。あじさいの葉や畑・花壇にいるカタツムリや虫たちを見つけ、歓声をあげています。泥んこになりながら、虫カゴを片手にもち嬉々として遊んでいます。大変、子どもらしいです。

ただ、中には「なんしょんな!これ俺がみつけたんど」友だちをすかさずパンチ!!(えっ!そこで叩く?)
ちょっと「みつけた!」と言う喜びの声に友だちが反応し共有しようと虫カゴの中を見ただけなのですが・・・。
叩いた子どもにとっては、自分が見つけた大切なもの。一人占めしたかったんですよね。気持ちも分かりますが、すかさずパンチでは相手はびっくり!
叩かれた相手は驚きと痛さで涙と鼻水で顔は、ぐしゃぐしゃです。側にいた保育士も、びっくり。お互いの思いを言葉にして伝えます。

私、普段から遊んでいる子どもたちの言動には気をつけるようにしていましたが、いつにもまして気をつけるようにしました。多くの子どもたちは、発達段階に応じて友だちを受け入れながら言葉を交わして遊んでいます。

しかし、ここ数年、思い通りにならないとすぐ怒り、友だちや保育士に物を投げたり、暴言を吐く子どもが増えてきました。

「すぐキレル子どもたち」が以前より増えたように思います。それは、どういう状態のことかと言うと怒りや感情の高揚を自分では制御できず、乱暴な言動をあらわにする衝動に駆られる子どもたちのことを言います。

時には、友だちに乱暴をしたため保育士が話を聞こうとすると保育士に対して「ばばあ、死ね」「殺すぞ」と言い放ち、「どうせ、おれなんか」と泣きながら自虐的な言葉を吐きます。どのような言葉を発しても、感情を抑えるのではなく吐き出させ落ち着くのを私たちは、待つようにしています。子どもは全て吐きだすと、だんだんと落ち着いてきます。そこで、そっと抱きしめ「どおしたん？」と尋ねます。その時の思いや感情を落ち着いて話せる子もいれば、そうでない子もいます。

私たちは、どのような言葉も否定しないようにし、発した言葉を繰り返しながら「そうだったんだね。くやしかったね。」などと、ゆったりと話しかけていきます。この繰り返しを毎日の生活のなかで行っている現実があります。

いつか、「そんなに腹をたてなくてもよかったのに」「落ち着いて言葉で説明すれば分かってもらえたかもしれない」などの言葉を引き出せるかもしれないことを願って子どもと毎日向き合っています。

いちがいに「キレル子ども」と言っても原因は様々だと思います。小さい頃から蓄積された心の抑圧で子ども自身も辛いと思います。自分自身を制御できない苦しみや周囲からも受入れられなくなる不安もあるのではないのでしょうか。

素直な感情が出せるようになるには、時間がかかると思います。親や周りの大人たちの理解と努力が必須だと思います。子どもが素直な感情で向き合ってきた時、一旦は受入れ、時にはスキンシップをとりながら、ゆっくり話を聞いてみてください。

ある文献によると規則正しい生活習慣を心がけることが大切。と書かれています。(以下「・」の文章は「青少年暴力に関連する食生活因子」須藤紀子カルシウムの摂取不足より)

- ・キレル原因には、食事や睡眠時間などの日常の生活習慣もあげられます。

例えば、神経の興奮を抑えるカルシウムが不足すると、キレやすくなると言われています。その他、カルシウムの吸収を助けるビタミンDなども含め、バランスよく栄養素が摂取できる食事を心がけましょう。

また、生活が不規則になると、子どもの精神状態が不安定になったりしキレル

原因にもなります。

保育園でよくあることですが、朝食をしっかり食べてきていない子は、給食の時間までもちません。ぐったりとなる子・ごろごろと寝そべる子。反対にイライラして、あちこちの物や人に当たり散らす子。(大人でもお腹がすくとイライラしますよね)さまざまです。

まず、保育士は熱を測ります。体の状態を調べます。異常が無ければ、子どもに「朝、何食べた？」と聞きます。子どもは「う〜ん」と考えこみます。

(そりゃ、私だって昨晚何食べた？と聞かれると「あれって」思うことがあります。あっ！私と一緒にしてはいけませんね)

連絡帳などを見ると「えっ！これだけ」というケースが多いんです。子どもの体は正直ですよ。それと、睡眠不足も同じです。活動がいつもと違います。規則正しい生活が送れるように心がけてやれるのはだれでしょう・・・。

今回は文章が長くなりましたが、まず親や周りの大人ができることは何でしょうか。再度、読みなおして考えていただけませんかでしょうか。

苦しんでいるのは、子ども自身であること。それを救えるのは親であり周りの大人であることを・・・。

では、今月はここまで・・・。

子育てが終わった ばあ〜ばより

